

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Pregnancy bias toward boys or girls: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

生まれてくる子どもの性別と子どもの兄弟姉妹の性別の関連

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2023 DOI: 10.1371/journal.pone.0287752

筆頭著者名: 宗 修平

所属 UC 名: コアセンター

目的:

本研究では、過去に同じ性別の子どもを続けて妊娠・出産している女性について、次に産まれる子どもの性別にも、同様に性別の偏りがみられるかどうかを検証することを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した妊娠初期の女性 104,062 名のうち、子どもの性別に人為的な影響をもたらす可能性がある不妊治療を経て妊娠した女性や二次性比に影響を与える流産、死産、中絶歴のある女性を除外した 62,718 名を対象に検討を行った。このうち、第 1 子と第 2 子がともに男児の 2,990 名と、ともに女児の 2,433 名の間で、次に産まれてくる子どもの性比(男児/女児)を比較した。

結果:

今回が初産(第 1 子)であった女性の子どもを生比は 1.055 であった。これに対し、エコチル調査参加以前に連続して男児のみを妊娠・出産している女性では今回妊娠した子どもの性比は 1.112 と男児への偏りを認め、反対に連続して女児のみを妊娠・出産している女性では子どもの性比が 0.972 と女児への偏りを認めた(リスク比: 1.07[1.01-1.23])。

考察(研究の限界を含める):

過去に連続して男児を妊娠・出産している女性の方が次回妊娠機会も男児となる確率が 7%程度高くなることが明らかになった。今回の検討では過去に流産や死産、および中絶を経験した女性は解析対象としていないことから、この子どもの性別の偏りは、妊娠の段階で決定していると考えられる。今後はその要因について調べるのが課題となる。

結論:

過去に連続して男児のみを妊娠している女性は、連続して女児のみを妊娠している女性よりも、次の妊娠機会でも男児を妊娠する確率が高いことが示唆された。